



悪



恥



羞



は

DOJIN  
1118  
成人向け

未満の  
成人向け禁止

「うわっ 日影さんのおっぱいハリハリありますぞー！  
押さえつけも程よくて乳圧最高ー！」

「なんや、胸で挟むだけでこないに硬くして  
そんなにこれが気持ちええんか？」



「ん、なんやこんな苦しもうにして  
ワシが目一杯しごいたるわ……」

「ああああ！ちよつとたんまたんま！  
そんな急に激しくされたらヤバイってえ！」



んっ…出た出た…

舌で亀頭舐められながら  
そんなしっこかかれたら…イクっ！



「はあ……はあ……日影さんのおっぱい……  
キツキツで我慢するとか無理……」

「胸でしごくだけでこない出して……  
ほんま情けないやつやなあ……」

「All……」

「アッ……」

「ト……」

「なんや、おもしろい体位やな。」



グイ

アッ

エ  
っ  
っ  
っ

「上下で挟んでパイズリっ♪  
手で押さえれば乳圧も最高！」



「うおおおー！普通のパイズリより  
裏筋めっちや刺激されて気持ちいいー！」

「アッパニ！」

「パッパッパッ」

「アッパッ」

「パッパッ」

「……ワシは何も感じへんけどなあ」





んっ、やっといっただか...

ビュルル

ド

ツッ

♡

ビュ

日影さんのキツキツおっぱいに中出しイクよっ...



「ふう・上下のサンドイッチパイヌリだと  
裏筋すれまくって最高……」

「ド  
ロオ……」

「ドグッ..」

「またこないな臭い汁出しよってからに……」



「なんや三人揃ってこんな勃起させて…  
扱かな治まらん？…仕方ないなあ…」

「~~ニ~~ ~~コ~~」

「~~ロ~~」

「~~ア~~ ~~ア~~ ~~ア~~」

「うは！日影さんの舌テクやばー！」

「パイズリも手で締め付けたらおっぱいに  
チンポ完全に隠れちゃうわ！」



「おっぱいヌルヌルでチンポに絡みついて！  
気持ちいいー！」

「こっちも裏筋ペロペロされてそろそろやばいー！」

ゴ

ン

ア

ン

ン

「なんや、もうイキそうなんか、とんだ早漏やなあ」



「きゃーきゃーのちちマのこにっぽこ出すよー」

「こっちも日影さんの裏筋フェラでイクっー」

「ムルル！」

「トビ」

「トビ」

「ムっー」



「はあ：はあ：エロ乳パイズリにザーメン  
全部持ってかれた。」

ドク。

ブロ〜

ドク。。

「ん？もうイッたんか  
ほんま胸でしごくのが何が楽しいのか。」



「春井様のおっぱいはマ○コが僕のチンポを  
挟んでくださってるぅー！」

ニフフ♡

「ズッコッコ♡」

「んふ♪ほら、こうしておっぱいを  
押さえつけると良いんでしょ？」



「あああー春花様！  
そんな早くしっこかれた出ちゃうー！」



「ほらほら♪もうイキそうなの？  
良いおよ、イツちやいなさい  
見ててあげるから♪」

「だめだめ！は、春花さま！  
も、もう…出るうー！」



「あは♪もう出ちゃうなんて…  
だらしないオチンチンね…んふ♪」



「んふ♪こんなゲームメン射精して…  
そんなに気持ちよかったのかしら？」

んふ♡

ドロ… コポ…

「はあ…はあ…春花様のパイズリ最高  
もうゲームメンスツカラカンです」



「何？こんなに揃いも揃って大っきくしちやって…  
仕方ないから私が楽にしてあげるわ♪」

「あ、ありがとうございますー」

「ウツヒョー！春花様のエロ乳パイズリでいただきまーすー」



「ああ・春花様のおっぱい柔らかいのにハリがあった  
ちよっくと挟んだだけで乳圧スツゲー・気持ちよすぎるうー！」

「んふ♪腰振って情けない顔ね  
チンポもギンギンでもうイキそうなんでしょ？」



「春花様！も、もう気持ちよすぎて……出ます！」

「あは、またこんな臭いのいっぱい出しちゃって……ダメなおちんぼさん達ね。」



「もう…おっぱい…ロロロ」

「これだけ射精すればもう満足かしら？」

ドゥフ

クフ

「は、はい…もうザーメン一滴残らず絞り出しました…  
エロ乳マ○最高のすー」

ビク



「春花様の陥没乳首やニカニで気持ちいい！  
裏筋スリスリするだけでイキそうだー！」

「パイズリもおっぱいキツキツでヤッスー！」

ズル

7i

ズ

「あらあら...」





「はああ春花のおっぱいスルスルスルスにぶにぶで  
気持ちすぎ！腰止まんないー！！」

「あん：そんな激しくしたら  
おっぱい壊れちゃうわね」

ブツブツ

スルスル

スルスル

「ああああ！春花様あー！」

春花様の柔らか乳マ○コに出るっ！

ビュルル

ビュ  
ビュ  
ビュ

ドゥ  
ドゥ  
ドゥ

「ああん♪」





「はあ・はあ・春花様のエロおっぽいに  
搾り取られた……」

フフ

ドロォ

ビュルル

「あは♪すっごい……またこんなに射精して……」



「未来ちゃんのスク水ちっぽいと  
スベスベのたももに挿入うー！」

ゴ  
ッ

フ  
ッ  
♡

「こんなの全然おっぱいに関係ないじゃない  
何こんなにが千が千にしてんのよ……」



「な、何腰振ってんのよ！  
それになんかさっきよりが千が千になっ  
てるし……」

ズッ

カワ

「スク水の生地と未来ちやんの柔らかい太もも  
締め良すぎてやばいの腰止まんないよー！」

フル

カワ

「未来ちゃんの全身使ったマのヨでイクよおー！」

ド  
ア  
ッ  
♡

クィ  
ュル

「きゃっ！な、何これ！？  
なんか白いの出てるおよー！？」



カク

「はあ...はあ...未来ちゃんのスク水たももマのゴに搾り取られた...」

カク

ハッ

ハッ

「うう...何なのよこれ、熱いし臭いし...  
最悪...」

ト...

「うはっ生で未来ちゃんの乳首でチンコしごけるなんて  
スク水に挟んだだけでイキそうっ！」

「フェルニィ♡」

みらし

ブルル..

「なんなのよこれ…ヌルヌルするしチンチンあっついし…  
パイズリって本当にこうゆうものなの？」



「乳首とスク水の水のサンドイッチ最高！  
もう我慢限界だ！イクよ未来ちゃん！俺のザーメン  
乳首でいっぱい感じてね！」

「ちよ、ちよっ  
と待ちなせ……んっ！」

「んっ  
んっ  
んっ」

みん



「はあ...はあ...乳首とスク水やばすぎる...  
気持ち良すぎて腰のカ入んないわ...」

「またこんないっぽい...  
うう...く、臭い...」

ハア

ハア

みんし

プ

ダラ



「未来ちゃんが俺のチンコを可愛いとおっほいで挟んでくれてるうー」

「水着破いてまでチンチン入りたいなんてどれだけヘンタイなのよ...」

んん

トトト



「腰止まんねえええ！」

未来ちゃんもものとおっほいでズリズリしてー！  
手でズリズリしてー！

「んん…すっけいけいけいしてきてる…」

ズル

ズ

リ

ズ  
ッ

ズ  
ッ



「あああ！もう限界！

お手手とヌルヌルおっほいにチンホしりかかれて…」

「きゃっ…  
白いのいっほい出てる…」

ビュッ  
ビュッ  
ビュッ  
ビュッ



「はあ。はあ。未来ちゃんのスク水乳首に金玉のザー☆  
全部持ってた。お。」

「すごい。白いのこんなに...  
顔にまでかかった。ちやったいやない！」



「チンポに押さえつけられたおっぱいの乳圧凄すギッ！  
挟まれてるだけで射精しちやいそうだわー！」

ムギム

ギッ

「陰部を擦りつけるだけで  
なぜそんなに興奮しているんだ…」



「ちよ、ちよのと待て  
なぜ急に腰を振りだすんだ……んっ！」

んっ

ズツ

グッ

ズニ  
ズニ  
ズニ

「ビンビンな乳首と水着の圧迫やばすぎる！」  
「パイズリも締めすぎでチンコおかしくなるううう！」

「うっうー…もう無理ー！  
焰ちゃんザーメーとっのっのっ  
ぽい堪能してね！イクよー！」

トト

ポポ

ニ

レレレ

んんっ！





「はあ...はあ...**溜ちやん**のおっほにまろこに  
中出ししちやのた...」

「くっ...なんだこの液体は...  
すごい悪臭がするぞ...」

コブ

フル

くっ



「うわ！チンポ全部埋まっちゃった！  
手で押さえつけるけど痛くても我慢してね！」

「くっ…そんな所に挿入してなんになるんだ…」



「手でめいっぽい抑えてるから締めまり最高！  
スベスベぶにぶにでマ〇コに入れるより  
全然気持ちいい！」

「ほら手も動かして！イッチニ！イッチニ！」

アイ

グッ

グッ

「痛っ！そんな握り潰すような力で握るな！  
胸がおかしくなってしまうっ！」



「そろそろイクよ焰ちゃん！  
キツキツ下乳マ○コに中出ししー！」

「ちよ、ちよつとま……んああー！」

「ド」  
「ド」  
「ド」  
「ド」

「ド」  
「ド」



「ああ…下乳良すぎ…  
最高のオナホおっほいだわ…」

ズ  
ン  
ッ  
♡

ズ  
ン

「はあ…はあ…やっと終わったか…」

「焰ちゃんのおっぱい、ほーんま〇〇」  
上からいただけきまーすわ」

「なぜこんな体位で…  
早く済ませろー！」

「ぎゅん」

「ふん」



「おほっ♪ 焰ちゃんケツ穴見せながら  
おっぱい犯してる！ めっちゃ興奮するうー！」

「んっんっ！  
谷間が擦れて熱い！」

アッ！

アッ！





「イクよ！…焰ちゃん！」

お腹に僕のホカホカザーメン出るー！

「んあー…熱のー！」

じゅるる！

んんん





「はあ...はあ...パイザリオナホに搾り取られたあ...  
焰ちゃんのエロ乳最高...」

「...」

「ハッ」

「ズル」

「ド...」

「んほー！詠さんのデカパイ最高  
乳首つまみながらおっぱいに挟まれてるだけで  
いっちやいそうだよー！」

ムギョ

「んふ♪殿方にこんなに喜んで貰えて光栄ですおっ

ク  
||

ク  
==



「はあああ！腰止まんない！  
詠さんの亀頭コネコネパイズリやばすぎるうー！」

「あは♪そんなに必死に腰を振ってよほど気持ちいいのですね？」



「おっ、おっ、おっ、おっ、おっ」

「詠さんのエロおっぴんぱいずりしてもらって、イクっー」

ドム

ドム

ムツ

ドム

ドム



「詠さんのパイズリ最高

亀頭攻められながらしごかれたら我慢とか無理だわ...

ゴッ

トロオ...

「あはゆすびい...いんなに...  
満足してもらえたようで何よりですおゆい



「馬乗りで詠さんの  
おっぱい犯しちゃって  
るよー!」

ピト

「**ア**」  
「**ク**」  
「**ツ**」  
「**ク**」  
「**ク**」

「馬乗りのパイズリ?ニ、こうですの?」



「おおおー！乳圧やばー！  
乳マ〇コ締り良すぎで  
チンポめちゃうちゃうー！  
になっちゃうううー！」

「あん♪そんな必死にならなくても  
おっぱいは逃げませんわよ！」





「あっ、すげえいーいーんなに……」

ビュッポ

「詠さんのヒロ乳マ○ロ○ミ中出ししちやん……」  
イクッ……」

ビュッ  
グ  
ッ  
♡

ビュッ  
ユルル



「あはっ♪おっほい犯されて  
ザーメンだらけになってしまいましたわ♪」

フル.

ダラ～

トロ...

「はあ...はあ...詠さんの乳マのこ  
に金玉のザーメン全部捧げちゃった...」



「詠さんのチカ乳を独り占めできるなんて  
夢みたいだ……」

「んふ♪こんなにかちがちに……  
ほら、おっぱいでしごいてもいいんですわよ？」

ピト♡

「うおっ！温かくてハリがあったって  
チンポ包み込まれちゃった...」

「ほら、そのまま腰を振っておっほいを  
めちやくちやくにして構いませんのよ？」

「グイ  
グイ  
ム♡」

「あんのすこい...が千が千のチンポに  
おっぱい犯されちゃってますわよ」

ポーンッ

アア

「あああ！詠さんのキツキツ乳マ○コ  
締まり良すぎて腰止まんないっ！」

アハハ！





トボッ

「誂さんのおっぱいママコフレイクッー」

ビュッ

クッ

「あんっ いっほい出てるよ」

「気持ち良すぎて  
腰に力入らなくなっちゃった…」

ドロおへ…

ゴブ。

ピク

ピク

「んふ♪まだザーメンビュクビュク出てますわよ  
チンポも痙攣して…  
よほど気持ちよかったですね♪」

「顔にまで届くほど臭いザーメン射精して…  
もうめっちゃくっちゃですわね♪」

ドロオ

アムン…

「ふう…詠さんのおっぱいはマ○コがあまりにも  
気持ちよかったので金玉のザーメン  
全部ぶちまけちゃいました」

